

とのできない水をかくほしようためと溜池を作ったり、用水路を作ったりしました。

いまは、いろいろな産業があつて働くところもたくさんありますが、そのころの山近くの村々では、農業や林業でのほたらきが一番だつたのです。そのため、いっしょうけんめい農業のかいぜんにつくしたのです。

民吉郎は、前々からしたいと思つていた一つにふるさとの歴史の研究がありました。

いそがしかつた村長をやめると、さつそくとりかかりました。近くの村々を歩き、古くから伝わっている文書や、いいつたえなどをしらべたり聞いたりしました。

とくにきょう味をもつたのは、宇津峰山の歴史です。それは、南北朝時代（やく七百年前）といわれた昔、北畠きたばたけあきのぶ顯信けんしんという人が守永親王もりながしんのうを助けて足利尊氏あしかがたかうじのけらいと戦つた所でした。

そんな時、たまたま大槻文彦おおつきふみひこという先生が、南北朝の戦いの研究のため、宇津